

令和3年度第1回廃棄物減量等推進審議会 会議録

- 1 開催日時
令和3年10月15日（金）
開会 午前 10時30分
閉会 正午
- 2 開催場所
尾張旭市役所 南庁舎3階 303会議室
- 3 出席委員
矢野昌彦、新田美得、佐藤庸子、松原ふき、白坂弘子、榊田英也、米今賢二、篠田すみ子 8名
- 4 欠席委員
谷口悦予、伊藤紀子、小林寛司 3名
- 5 傍聴者数
0名
- 6 出席した事務局職員
市民生活部長：大津公男、環境課長：木戸雅浩、環境課長補佐：西尾元伸、環境課主事：飯田あゆみ
- 7 議題
(1) 会長の選出及び職務代理者の指定について
(2) 尾張旭市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について
- 8 報告事項
(1) 新たな発火性危険物の分別収集について
(2) 指定ごみ袋の規格見直しについて
(3) リサイクルひろばクルクルの利用状況について
- 9 会議の要旨

議題(1)：会長の選出及び職務代理者の指定について

【会長の選出】

- ・新田委員の推薦により、矢野委員に決定（他委員の推薦や意義なし）

【職務代理者の指定】

- ・矢野会長の指名により、新田委員に決定（委員の異議なし）

議題(2)：尾張旭市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について

【主な質問】

- ・コロナウイルスの影響で巣ごもりが続き、家庭から出るごみの量が増えているが、どの程度増えたのか。令和元年度からは、ごみが増えているという説明があったが、コロナウイルスの蔓延防止に伴い在宅時間が増えたという外的要因が関係しているのではないか。（新田委員）

⇒事業概要7ページにあるとおり、処分ごみについては、令和元年度から2年度

にかけて2%程度の増加があり、コロナウイルスによる影響が大きいと考えている。次期計画はこういった外的要因を考慮し、慎重に策定していきたい。

- ・No.38について、連合自治会に対しごみボックスの配布があったが、今回配布できなかった地区からも希望の声がある。来年以降も配布の予定はあるのか。(新田委員)

⇒今回は、コロナ対策として国から補助された財源を用い、配布を行った。今後は財源措置の状況に応じ、購入費の一部を補助する補助金制度も含め検討しており、地域に一部の負担を求めることも考えられるが、市としてはできる限りのことをしていきたいと思っている。(環境課長回答)

- ・No.29について、個別収集の今後の進め方はどのようにしていくのか。(新田委員)

⇒戸別収集は、調査研究を進めている段階である。今後も市の特性を踏まえ慎重に検討していきたい。(環境課長補佐回答)

- ・No.38について、カラス対策としてのごみボックスの効果はどの程度あるのか。(矢野会長)

⇒現状はカラス除けネットを市で配布しており、さらなる取組として、ごみボックスの配布を行った。ごみボックスは折り畳み式であり、置ける場所に限りがあがあるが、試行的に運用した地域の方からは、カラス対策として絶大な効果があるというお声をもらっている。(環境課長補佐回答)

- ・ごみボックスは誰が管理をしているのか。旭ヶ丘のように地域のまとまりがある地域はいいが、集積所の近くの住人が管理を担っている地域も多いのではないかな。

⇒ごみボックスの折り畳みや管理などは、地域の方に当番制などでお願いしている。課題もあるが、多くの地域が協力して管理してくれている。(環境課長補佐回答)

⇒固定式で置けるところ以外は、排出者責任でその集積所を利用している住人が当番制で順番に管理をしている。(新田委員)

【その他の意見】

- ・カラス対策の一つとして、生ごみを減らすことが重要だが、堆肥化は手間がかかり、捨てるほうが遥かに楽である。そのため、堆肥化に取り組んでも、やめてしまう方がほとんど。夏は虫がわき、臭いも出て、未だベストな方法は模索中である。畑などの、堆肥化ができる環境をお持ちの方へのPRと、興味を持ち取り組み始めた人をいかに育成していくかが大切。また、手間のかからない高速堆肥化装置も売っているが、設置場所とランニングコストが必要になるため、一般の方にはハードルが高い。ここを市がサポートしていく必要があると思う。(米今委員)
- ・事業者として、生ごみをバイオ燃料へ変える取組を検討中であるが、課題も多く難しい。(榊田委員)

- ・ 連合自治会では資源ごみ回収や子どもを対象にした地域連携教育を行っている。ごみの分別について、子から親へ知識を共有してもらうことで、ごみの分別促進を図っている。(新田委員)
- ・ 実際に、生ごみの水分を切り、天日干しをしてから捨ててみたが、風で飛ばし、虫は来るし大変なことになった。できる範囲でできることを一人一人が行っていくことが重要 (佐藤委員)
- ・ 10年位前に、雑紙の分別を始めた時は、環境課が主体となり地域団体と協力して、毎日公民館等でDVDでの周知を行った。尾張旭市民は、本気で訴えかければ動いてくれる方が多いので、広報等での周知に加え、地域に足を運び、周知啓発していくことがごみ減量への近道だと思う。(米今委員)
- ・ 教育を重視し、市民ひとりひとりに自覚を持ってもらうことが大切。旭ヶ丘のようなモデルケースをほかの自治会に連鎖させていけると良い。(矢野会長)

報告事項(1)：新たな発火性危険物の分別収集について

【質問・意見】

- ・ 特になし。

報告事項(2)：指定ごみ袋の規格見直しについて

【質問・意見】

- ・ 特になし。

報告事項(3)：リサイクルひろばクルクルの利用状況について

- ・ おもちゃ病院の料金はいくらかかるのか。(白坂委員)
- ⇒ 部品交換が必要な場合を除き無料 (環境課長補佐回答)

10 その他

【意見等】

- ・ 審議会委員としても、環境問題に積極的に取り組んでいるため、SDGsバッジを市から提供してもらえないか。(白坂委員)
- ⇒ 健康都市推進室に確認したところ、イベントの景品としてお渡しをしたことはあるが、一般の方向けに配布等に行っていないとのこと。
- ・ 他市において行っている生ごみ対策の中で、尾張旭市で参考にできる取組があれば活用できるといいのではないか。堆肥化だけではなく、生ごみ自体を減らすための先進事例等があると良い。(米今委員)
- ⇒ 環境課にて調査研究を進めます。(環境課長回答)